

沖縄国際大学「平和運動史」講座における上映会の感想

宜野湾市にある沖縄国際大学で「平和運動史」という講義を担当している非常勤講師の西岡信之と申します。

4月22日の講義で、「冬の兵士」を上映しました。

時間の関係で、全員の感想文は集められませんでした。約10名の学生がA4判にびっしりと後日感想を提出しました。

2009年度 前期 平和運動史 2009年4月22日(水) 第3校時

第3回 DVD「冬の兵士 良心の告発」を観て 感想

私は今回のDVDを作った会社や反戦イラク帰還兵の会の人々に感謝したい。世界はアメリカに追従し、何が良く何が悪いという判断をアメリカにゆだねているような気がする。戦争は悪いものだとも誰もが周知しているはずが、「必要悪」という言葉でこのイラク戦争をかたづけようとしている。それは「交戦規定」に顕著に表れていて、日々変化することに軍人の誰もが惑いを感じていたと知ることが出来た。戦争に参加した軍人が戦地での記憶に、帰国後もずっと悩まされているに、国は何のケアもしていないことから、“戦争”を軽視した事実にあきれかえってしまう。ここまでは、またアメリカだけを悪者扱いしてしまったが、はたしてアメリカだけのせいなのか...私達同盟国も同罪ではないのか。実際私は留学の時にイラクに駐屯経験のある韓国人に話を聞いたことがある。彼はお金のためにイラクへ行くことを決意したと私に話してくれた。韓国は兵役の義務があるが彼の兵役期間中、希望者は高い報酬金を国から受け取りイラクへ派兵されるという。私は彼に戦争に参加した実感はあるかと聞くと安全だったから、そんな実感はなかったと言ったが、支援という形でもイラク住民からすると、アメリカの仲間が変わりはなく、遺憾に思われているに違いない。日本にも同じことが言える。私達はDVDの内容からイラク戦争をもっと近く感じなければならぬ。心的外傷後ストレス障害に悩む彼らと同様に“戦争”を感じなければならぬ。

イラク人はアメリカだけを憎んでいるわけではない。反対運動に積極的になりたいと思った。

講義のビデオを見て戦争の恐さを改めて思い知った。私が住んでいる沖縄でも60年前に戦争が起こっていたため、数々の米軍基地がある。最近のニュースなどでも、米兵が事件を起こすということが多数ある。他にも飛行機が何回も家の上を通り暴音が鳴り響いている。私の実家は、名護のため、大浦湾で基地移設の問題があがっている。私にできることといえば、もっと沖縄以外でも戦争の実態に興味をもつことだと思います。このビデオを見ることにより視野を広げることができたのでよかったです。平和についてもっと知識を増やして世界中が平和になるよう、私の身近な辺野古基地から調べていきたいです。

ビデオを見て、イラクに派兵されているアメリカ軍は差別に人を殺していることがわかった。罪のない人たちが何万人と殺した兵士の中にも「何の罪のない人たちを殺してしまいくいに残る」という人がたくさんいた。イラクでは虐待などが毎日に行われていると知った。罪のない人を殺したら「暗黙の了解で武装勢力だったとして殺した」とされていた。一人の元兵士が言ったようにPEACE(平和)は世界共通で世界の人々が思っていることだと思った。

私はもちろんイラク戦争に反対でしたが、その理由とは「戦争はいけないこと」という認識があったからだけでした。しかし今日の講義を受け、イラク戦争のリアルな話しを聞くことで、しっかりと理由が分かった気がしました。それは、「戦争は無意味だ」ということです。全然戦争と関係の無い人々がアメリカ軍によって殺され、またその殺したアメリカ兵も精神的に傷ついている。この負の連鎖が続いているだけだと思いました。

実際に戦争に行ってきた兵士の証言には本当に驚きとても怖くなりました。イラク人を無差別に

殺したり、殺された人に名前を付けたりと頭がおかしくなっていた人だと思いました。
本当に「平和」が大切だと思い知らされました。

1

「冬の兵士」を見て、戦争はその戦争のルールさえも破壊してしまうものだと、あらためて感じました。

メディアによる情報操作の話は太平洋戦争中の日本とそっくりだと感じるとともに、現在でもこのようなことが起こっている社会に不安を覚えました。

「怪しいから殺す」「武器を持っていたら殺す」というアメリカ側の論理は「銃社会」と呼ばれるアメリカ国内にそのまま適用されます。彼らは日々「戦争」の中にあることを知らないのでしょうか、悲しいことです。

誰かにとっての「正義」が他の誰かにとっては「正義ではない」可能性をどうして否定できるのでしょうか。

みんな恐怖におびえている。その恐怖を武力ではない方法で、戦争ではない方法で克服していくべきだと思います。

イラクに行ってアメリカ兵がしてきたことは、国のためでも、人のためでも、自分のためでもない、犯罪だと思いました。

911があって、イスラム教徒を、イラクを憎む人々。911で2千人ものアメリカ人が亡くなって、皆が悲しいおもいをしたのに、憎しみだけでイラク人、イスラム教徒の人と戦争をして、殺された人の家族のどちらも同じ気持ちになるだけで何もかわらない。

アメリカを愛する、愛国者であるがゆえに、イラクに敵意をもっている人たちもいる。事実を知るのは、実際に戦場にいった兵士たちだけに分かることであり、情報を伝えるマスコミでしか知らない私たちは、何が事実で本当のことなのかみつけだすのはむずかしいと思った。

今回、初めてイラク帰還兵の証言を聞いて、改めて戦争をすることの無意味さを思い知らされた気がする。今まで何の罪もないイラク住民の命までも奪っていった米軍が全て悪いんだという先入観みたいなものが私自身の中にあっただが、証言を聞いていると、命令されれば従うしかないし、何回も自分達の都合のいいように変えられていく交戦規定にとまどう兵士達の過酷な状況がみえた。人間から人間らしさを奪っていく戦争をなぜ起こさなければならなかったのか。目先だけの利益や、自分達さえよければそれでいいのだというような政策自体を、根本から見直していく必要があると思う。

私の伯父は、自衛隊の先遣隊で3カ月イラクへ派遣されイラク戦争は、私にとってもすごく気が重いです。

日米安保の中で米国と日本は同盟国という立場でイラクでの米軍支援をしたということは、多くの人々を死なせたことにつながっている。

戦争は、多くの問題のかたまりである。

人が人でなくなる。我々が生きている日本では人を殺すと罪になるが、戦場では一般の人だろうが、兵士だろうが、個人が敵とみなせば、いくら人を殺しても罪にとわれることはない。なぜだろうか。

人を人としてみるのではなく、作戦目標すなわちターゲットとしか見ることはできなくなるのだろうか。

理不尽な世の中で力だけがものをいわせまかりとおる、今だからこそ、その力の矛先を別の、ところに方向転換し、世界中から戦争で悲しむ人々がいなくなることが平和運動をする意義ではない

だろうか。

最後にDVDを見ることで、私の平和ボケを再実感されました。イラク戦争は、どこか遠くの

2

国のお話でなく身近かなものということに…。

戦争って何の意味があるのだろうか。「冬の兵士」を見てあらためて、そう思いました。アメリカがイラクへ派兵し、戦闘をしている事は、テレビの報道などで、知っていました。しかし、このアメリカ軍の交戦規約のあいまいさや、戦地での実状などは、今回はじめて知り、目には目を、歯には歯をという言葉の通り、本当に倫理感の全くない行動だと思った。報道では情報は塗り替えられ、戦地に派兵された兵士たちは、混乱の中、自らの命の危険に立たされた状態で、指令されることに、疑問を持ち、考えるという余地も与えられなかったという事実は、本当に恐ろしい事だ。何の罪もない多くの人々が何の意味もなく殺され、殺し、そしてそれがくりかえされる。終わりはないと思う。反戦イラク帰還兵の会に対し、戦争賛成派の人々が「9・11を、忘れたのか」と言っていたのを見て、やられたらやりかえす。という解決方法しか見出せない現在の社会に、ひどく悲しいという思いを感じました。

アメリカは愛国心の強い国かもしれないが、このビデオを見て「愛国心」の意味をはき違えていると感じた。

国のためにイラクの住民を殺す、たとえ相手が女性や老人、子供であっても殺す。戦争のためになり出された兵士たちはやがて非人間化していき軍に操られるがままのロボットと化していく。彼らは殺すということへの抵抗感を忘れ、感情を無にして銃を手にする。高校を出たばかりの20代前半の若い兵士達には何が正義なのか、何が善なのか考える余地はないのだろう。非人間化された人間の除隊後、彼らは戦争のフラッシュバックに襲われ苦しめられる。精神障害、ストレス障害にわずらわされ、手に職がつけられない人や自殺におい込まれた人もでてきている。

世界最大の軍事国であり世界のトップに立つ国がついに殺し合いだけでは片付けられない課題をつきつけられた。メディアのあおりも含め、戦争賛成の意見や国の役立つために自衛隊へ入隊するといった考えは見直されるべきだろう。最終章で帰還兵の残した「PEACE」というメッセージがしっかりと国民に響いてほしい。

社会文化学科 3年生

ウィンターソルジャーのビデオを見てすごく衝撃を受けました。

交戦規定がどんどん変わっていき、最終的には“路上に出ているなら殺す”とか“自らの判断にまかせる”とか“みんな殺せ”というのになっていきました。ビデオで交戦規定はイラクにいる兵の大切なモラルと言っていました。そんな交戦規定が矛盾してしまったら、人間性を失ってしまうのは、当たり前だと思います。アメリカは、ちゃんとイラクの人々に賠償をしていかないといけないと思います。罪のない人々をたくさん殺したのに、何も賠償しないようであれば、世界のトップの国がすることではないと思いました。

戦争は、攻められている人々も苦しい思いをするし、実際に攻撃している軍隊の人も苦しい思いをすることがこのビデオで分かりました。戦争をして得をするのは、安全なところでただ命令をしている政府の人だけだと思います。

ウィンターソルジャーを見れて本当によかったです。アメリカにも戦争に反対している人がいることが知れて安心しました。